

# 社会福祉法人 慈青会 平成 30 年度事業報告書

## 1. はじめに（総括）

法人設立から 2 期目を迎え、当施設基本理念（「高齢者が楽しく尊厳ある生き生きとした暮らしをささえます。地域と共に歩み、地域社会福祉の担い手として、すべての人がしあわせを感じることできるよう社会貢献に努めます。」）や事業計画に基づき、役員および施設職員が一丸となり職場環境改善、職員教育に努めてまいりましたが運営上いくつか課題がありました。主な課題の一つとしまして事業を支える介護職員・看護職員の安定的な確保と定着は依然として課題であり、ハローワークへ求人募集したところ、職員確保はできたもののスムーズにはいかず年間 12 名の退職者があり、より人材確保の難しさという課題が残ります。地域の高齢化が加速し、介護の需要は高まるばかりであります。担い手である介護人材が安定的に確保されなければ事業的にも機会損失は避けられないので、今後とも働き甲斐や働きやすい職場の環境（処遇の改善など）にしていくことが必要と考えています。

また、適正な運営に関しましては、青森市指導監査課による法人運営および介護事業所の指導監査の指摘事項や、様々な方面の方からのご意見に耳を傾け、事業運営の改善や向上のために活かすよう取り組んでいます。

## 2. 職員体制について

平成 31 年 3 月時点の職員配置は次表の通りです。

	施設長	生活相談員	介護職員	看護職員	機能訓練指導員	介護支援専門員	栄養士	調理員	医師	その他	実人数 合計
職員数	1	1 兼 1	15 1 兼 3	2 兼 2	1 兼 1	1 兼 1	1	4 1	1 嘱託	5	34

※上段は正職員数、中段はパート職員数、下段は他職との兼務の有無 有の場合「兼」と表記

## 3. 職員研修について

内部研修、外部修研は研修計画に沿って行いました。認知症介護や感染症等を再確認できたことで職員の意識の向上が見られ、ユニット会議を活用し職員全体で入居者様に楽しんで頂ける企画の提案と実施に取り組むように努め、毎月の飾りつけの更新、一人一人の希望に添った誕生日行事の提供、季節感のある取り組みなどの実施をしました。

また、各会議や各委員会等の職員が顔を合わす機会を定期的に確実に持って声を掛け合うことにより、ともに自己研鑽していく意識を育むことが出来た。引き続き、研修を充実させ専門性の習得を行い、職員教育と入居者に対して質の高いサービス提供ができるように努めたいと思います。

#### 4. 総務・会議について

年間計画に従い理事会（内部監事監査）、評議員会、人事考課、避難訓練、運営推進会議、各種会議、委員会を開催しました。主な内容は以下のとおりです。

##### (1) 理事会・評議員会開催日及び審議内容、審議結果事項

###### ①理事会

開催日	審議内容	審議結果
平成30年6月7日	第1号議案 事業報告、貸借対照表、収支計算書、貸借対照表及び収支計算書の付属明細書、財産目録について 第2号議案 青森銀行八重田支店より運転資金借入について 第3号議案 平成30年度補正予算について 第4号議案 定款変更について 第5号議案 慶弔内規の承認および地域の行事に対する支出の青森市指導監査課への確認回答事項について 第6号議案 運営規程変更について 第7号議案 就業規則及び賃金規程の変更について 第8号議案 公印管理規程変更について 第9号議案 預り金管理規程変更について 第10号議案 福祉サービスに関する苦情解決規程の制定ならびに第三者委員の選出について 第11号議案 定時評議員会の招集決定及び上程議案について 第12号議案 平成30年度青森市地域密着型サービスへ事業者応募申請について	可決  可決 可決 可決 可決  可決 可決 可決 可決 可決  可決 可決
平成30年11月29日	第1号議案 就業規則変更について 第2号議案 理事長職務執行報告	可決 可決
平成31年3月19日	第1号議案 平成31年1月までの財務・経営状況報告について 第2号議案 平成31年度事業計画ならびに予算の承認について 第3号議案 ささえ運営規程の変更について 第4号議案 就業規則他関連規程の変更について	可決 可決 可決 可決

###### ② 評議員会

開催日	審議内容	審議結果
平成30年6月15日	第1号議案 平成29年度事業報告及び決算書類の承認について 第2号議案 定款変更について 第3号議案 平成30年度青森市地域密着型サービスへ事業者応募申請について	可決  可決 可決

## (2) 運営推進会議

平成30年度5月、7月、9月、11月、1月、3月と2ヶ月に1回、計5回開催しました。そのうち、3回はグループホーム港町と合同で相馬町地域市民館にて行いました。

入居者の日常の様子や行事、事故報告やヒヤリハット、職員の動向や入居者の待機状況等を報告しました。また、参加者より様々な意見を頂き入居者の生活に活かすことができました。

## (3) 給食会議

毎月1回、会議を開催し、検食結果の振り返り、食中毒予防等について検討を重ねた。また行事食の検討や提供方法、食に関する嗜好調査結果の報告などを行いました。

## (4) 各委員会

当法人には、施設内のサービスの質の向上、施設内のマニュアルの作成および研修の計画等のために各種委員会活動を行いました。各委員会とは以下のとおりです。

### ① 身体拘束廃止委員会

身体拘束について、施設内で行っていないか等を委員会の場で検証し、もし必要な状況で行う必要がある場合は、委員会の場で話し合いを行い実施し決定しました。また、実施した場合においても、定期的にその状況をモニタリングし必要性を考察しております。

### ② 事故発生防止委員会

施設内の各サービスにおいて提出された事故報告やヒヤリハットの検証を行い、リスク回避が出来るように努めました。また、他に転倒等のリスクが高い方への対応方法などを検証しております。

### ③ 褥瘡対策委員会

褥瘡に対する予防と対策等を、委員会として検討し、施設内での取り組みに反映させている。また、実際に褥瘡がある方に対しての対応等を検証し、モニタリングを実施しております。

### ④ 感染対策委員会

感染マニュアル等の見直しや、施設内の感染対策の実施状況等を把握し、施設内で感染症が蔓延しないよう努めております。

## 5. 行事（ささえ）について

港町地区ねぶた祭り、納涼会、敬老会、誕生会、お便りの送付など年間計画に従い行いました。今後ボランティアの受け入れ等にも取り組んでいきたいと思っております。

## 6. 健康管理について

健診等規程に則り、職員の定期健康診断、夜勤者の特殊業務従事者の健康診断、雇入時健康診断、給食職員の検便検査等、インフルエンザ予防接種を行いました。インフルエンザの集団感染がありました

ので職員の健康管理への取り組んでいきたいと思ひます。

## 7. 安全管理について

消防設備点検（株青森ドライケミカル）、電気設備点検（東北電気保安協会）、受水槽の清掃及び点検、井戸水水質検査、レジオネラ菌検査、施設内大掃除、各種機器自主点検を年間計画に沿って行いました。

井戸水活用による融雪及び空調設備の使用によるランニングコスト（電気料）などの工夫を、今後行っていきたいと考えております。

## 8. 借入金の償還について

当期における福祉医療機構および青森銀行への返済は、福祉医療機構は3年（令和3年2月より返済開始）、青森銀行は1年間（令和元年4月より返済開始）の元金据え置きにより、借入金利息の支払いのみとなっており利子の返済は予定通りに行いました。

特別養護老人ホームささえ  
平成 30 年度事業報告書

1. 運営方針の目標（事業目標）の達成率について

入居稼働率については下記にあるとおり、目標である 95%を達成できたが、医療機関への入院者数が多いうえに入院期間が長くなり入居稼働率が不安定であった。このことから退居後の空床期間を短期間で入居に繋げることが重要と考えました。

(1) 年間の利用状況

① 利用者の状況（定員 29 名）

	延べ利用者数				平均 介護度	日数	利用率
	要介護 3	要介護 4	要介護 5	計			
当年度	1,279	4,727	4,033	10,036	4.26	10,036	95%
前年度	-	-	-	-	-	-	-
比較	-	-	-	-	-	-	-

(2) 年度末の利用状況

① 入居者の年齢状況

	70 歳 未満	70～ 74 歳	75～ 79 歳	80～ 84 歳	85～ 89 歳	90～ 94 歳	95～ 99 歳	100 歳 以上	計	平均 年齢
男 性	2	0	2	0	1	0	1	0	6	78.0
女 性	2	0	3	3	6	6	3	0	23	85.6
総 数	4	0	5	3	7	6	4	0	29	84.0
前年度	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
比較	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

② 介護度状況及び入居前の居所

	要介護 3	要介護 4	要介護 5	計	平均 介護度	入居者の前住所地		
						港町地区	その他	計
男 性	0	1	5	6	4.8	0	6	6
女 性	3	12	8	23	4.2	1	22	23
総 数	3	13	13	29	4.3	1	28	29
前年度	-	-	-	-	-	-	-	-
比較	-	-	-	-	-	-	-	-

## 2. 具体的方策の実施について

① ユニットケアを実施し「入居者の安心・安全な生活」の充実を身体面、精神面を総合的に把握し適切なサービスを提供するについて

- ・入居者一人一人の生活を観察し、ニーズを把握する事に努め、真摯な態度で対応した。
- ・モニタリングや24時間シートを作成の為、観察をする機会が増えた。職員により差はあるが徐々に記入できました。
- ・多職種のサービス担当者会議を通じてケアプランの充実を図ることができました。
- ・職員の接遇として言葉遣いが乱れる事がありました。
- ・研修等を活用しサービスの向上を図りました。

課題：研修成果の取り組みが職員になかなか浸透しなかったため、今後も工夫しながら継続する必要があると考えます。

② 入居者の尊厳を守り「自分らしく生きる」という視点から施設全体で身体拘束廃止のに向けた取り組みを推進するについて

- ・身体拘束廃止、高齢者虐待防止の研修を全職員に行い周知徹底しました。
- ・身体拘束廃止委員会を定期的開催し、拘束をしない介護の工夫を検討し実践することができ、その結果身体拘束は0件でした。
- ・事故報告、ヒヤリハットの検討会議により身体拘束をしない介護にも活かすことができました。

平成30年度【事故報告 ヒヤリハット】

発生年月	報告形態	件数	事故内容
4月	事故報告	2件	(ベットからのずり落ち、服薬ミス)
	ヒヤリハット	1件	(転倒の危険があった)
5月	事故報告	4件	(服薬ミス、車椅子らの転落、ベットからのずり落ち、転倒)
	ヒヤリハット	2件	(転倒の危険があった、服薬ミスの危険があった)
6月	事故報告	3件	(車椅子からの転落、経管栄養接続部自己抜去2件)
	ヒヤリハット	2件	(転倒しそうになる、転倒しそうになる)
7月	事故報告	3件	(車椅子からの転落、経管栄養接続部自己抜去)
	ヒヤリハット	0件	—
8月	事故報告	2件	(ベットからの転落、服薬ミス)
	ヒヤリハット	0件	—
9月	事故報告	0件	—
	ヒヤリハット	1件	(転倒しそうになる)
10月	事故報告	4件	(服薬ミス、転倒、外傷、転落)
	ヒヤリハット	2件	(ベットの柵付け忘れ、服薬ミスの危険があった)
11月	事故報告	2件	(耳掃除による出血、転倒)
	ヒヤリハット	1件	(服薬ミスの危険があった)

12月 事故報告 3件 ヒヤリハット0件	(禁食を提供、車椅子誘導中のけが、転落) —
1月 事故報告 1件 ヒヤリハット 1件	(転落) (薬セット忘れ)
2月 事故報告 5件 ヒヤリハット 1件	(胃ろうチューブ周囲の皮膚異常、水疱が破れる、転倒、爪異常、服薬ミス) (転落の危険)
3月 事故報告 2件 ヒヤリハット3件	(転倒、感染症) (転倒の危険3件)

③ 人材確保ができるような職場づくりを目指し、職員の労働環境の整備と資格取得の支援を進める働きかけを行うとともに、介護技術、専門性の向上が図れるよう、人材育成をするについて

- ・介護看護職員の確保が思うように進まなかったため就業中の介護職員に負担を掛けてしまいました。

課題：次年度も引続き重点課題として一層の努力が必要と考えます。

- ・日々の業務においてより良い介護サービスの提供のための取組を行いました。
- ・外部研修への参加や内部勉強会の実施、介護職員の技術、能力、資質の向上を図り、地域ならびに入居者、家族から信頼され、親しまれる施設としての評価を高める努力を行いました。

課題：まだまだ不十分な点も多く、今後も職員の資質向上のための種々様々な内部研修、外部研修などに、工夫と努力を惜しまずに取組んでいかなければなりません。入居者に安心、安全な環境の中で、思いやりを持った温かみのある介護サービスを提供していくのは介護職員であり、地域及び入居者・家族から信頼される施設として認められていくためにも、入居者に快適な介護サービスを提供できる能力、資質を持った介護職員の確保に全力で取組んでいきます。

### 3. 援助内容について

#### ① 食事

- ・食事の環境を整え、常に清潔を意識し、食事前後の手洗いや手指消毒を入居者に励行し、食中毒予防に努めました。
- ・配置医、看護職員、介護職員、栄養士らと協同し、体重コントロールや経口摂取の維持を図った。また、行事食や季節感のある食事の提供とするなど、飽きないような献立の工夫を行いました。

#### ○食事の提供状況（人）

	普通	刻み	ミキサー	流動食他	計
当年末時点	1	11	11	6	29
前年度末時点	-	-	-	-	-
比較	-	-	-	-	-

#### ② 排泄

- ・個々の身体機能に応じて、できるだけトイレの使用を意識したケアを実践しました。
- ・排泄記録をつけ、排便コントロールや排尿状況の把握に努めました。

### ③ 入浴

- ・入居者の尊厳を大切に、入浴前から入浴後まで同じ職員がかかわる形での入浴の実施に努めました。
- ・看護職員と連携し体調面を入浴できない方は清拭等で清潔を保てるように支援しました。

## 4. 医務について

### ① 健康管理

- ・入居者の健康管理については、配置医、看護職員と介護職員等との間で情報交換、情報共有を図り、疾患の早期発見と早期受診につなげ、口腔内については、訪問歯科の協力を得て、毎週1回受診する機会を提供しました。

### ② 看取りケア

- ・看取りケアも実施し、今年度は1名を看取りました。

### ③ 感染症対策

- ・感染症を防ぐための衛生管理にも留意しました。職員、利用者に対してのインフルエンザの予防接種を実施し、まん延防止に努めましたが、3月にインフルエンザの蔓延により集団感染があり、入居者7名、職員4名が感染し入居者2名が亡くなるという事態に至りました。

## 5. 機能訓練について

### ① 実施訓練

- ・車いすの方について共同生活室における椅子への移乗等を行いました。

### ② 管理

- ・生活リハビリの観点から、立ち上がり動作の機会を増やすことによる下肢を中心とした筋力維持、正しい姿勢による食事摂取時の誤嚥予防等の目的があり実践しました。

### ③ 機能訓練計画作成

- ・機能訓練計画書を作成し、個々の機能にあったリハビリを実施しました。

## 6. 給食について

### ① 健康維持

- ・配置医師、看護職員、介護職員、栄養士らと協同し体重コントロールや経口摂取の維持を図りました。

### ② 食生活の充実

- ・食事の環境を整え、行事食や季節感のある食事の提供とするなど飽きないような献立の工夫をしました。

### ③ 衛生管理

- ・常に清潔を意識し、食事前後の手洗いや手指消毒を入居者に励行し、食中毒予防に努めました。



- ・衛生管理にも努めるとともに職員の体調管理も徹底して行いました。

④ 非常食管理

- ・災害時、緊急時のマニュアルを作成したので、次年度はいざという時に備え、マニュアルに沿って非常食の準備をします。